

# 都中英研だより

東京都中学校英語教育研究会  
会長 平岡 栄一  
(葛飾区立常盤中学校)

## 都中英研の人材育成について

東京都中学校英語教育研究会  
会長 平岡 栄一

令和5年度東京都中学校英語教育研究会（以下、都中英研）会長を拝命いたしました葛飾区立常盤中学校長 平岡栄一です。日頃より都中英研の活動につきまして、多くの皆様に御理解・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本会の歴代会長、各部長をはじめとする部員各位が蓄積した素晴らしい成果を基盤として、都中英研のさらなる充実・発展のために皆様とともに一層努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度ですが、おかげさまで全ての研究会・研修会等が対面で開催できるようになりました。一方で、オンライン方式での研修の利点も踏まえ、一層の活動の充実が図られており、夏季研修会も対面、オンライン、ハイブリッドの方式により開催されます。

都中英研は東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究会で、会の目的は、中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に英語教育の振興を図ることとしています。この目的を達成するために、本会では次の5つの事業を行っています。

- 1 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
- 2 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
- 3 研究活動（英語教育に関わる基礎的・発展的、実践的な課題解決）
- 4 各種英語教育団体等との連携・協力
- 5 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

また、今年度の重点目標は次の2つです。

- ① 全学年で実施するスピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする都の事業において、東京都教育委員会と連携すること、また東京方式少人数・習熟度別指導を充実させ、授業改善を実現することで生徒および教員の英語力を高めること。
- ② 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関、Global Education Network 20 指定校や、東京都立高等学校英語教育研究推進校との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにすること。

都中英研会員各位、またご関係のあらゆる皆様におかれましては、各自のすべきこと、また実現したいこと等を互いの協力により、ゆったりとした気持ちで、堂々と達成し、組織の一員としてまた個人として充実した日々をお送りいただけたらと願っています。

最後に、持続発展する東京や日本、そして世界を支えるかけがえのない、しなやかでたくましいグローバル人材の育成のため引き続き、皆様の変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



# 各部サマーワークショップ 報告

## 事業部

○日時：令和5年8月21日（月）13：00～16：30（オンライン併用）

○会場：千代田区立九段中等教育学校

○テーマ：『小・中・高等学校で一貫した英語教育を実現しよう！！』

～英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して～

○内容等

- ・東京型グローバル人材育成モデルの理念と英語授業
- ・中学校英語スピーキングテストの活用と指導改善
- ・東京都教育支援機構（TEPRO）を活用した取組事例

○講師：東京都教育庁グローバル人材育成部 主任指導主事 森田 剛 様

○発表者：立川市立第七小学校 校長 島村雄次郎

足立区新田学園新田小学校 副校長 島山芽含・主任教諭 竹田佐和子

三鷹市立第七小学校 主任教諭 今西 佑

八王子市立別所中学校 主幹教諭 小川史哲

東京都立青山高等学校 主任教諭 亀田洋斉

千代田区立九段中等教育学校 教諭 黄 俐嘉

事業部では、英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して『小・中・高等学校で一貫した英語教育を実現しよう！！』というテーマでワークショップを開催しました。（会場とオンライン参加者で約100名）

東京都教育庁グローバル人材育成部から東京都の重要施策であるグローバル人材育成事業についてご説明いただいた後に、各校種における指導事例を発表していただきました。発表内容について、概要を報告いたします。

東京都小学校外国語教育研究会の先生方からは、聞きたい、話したいという気持ちにさせる言語活動の工夫、ICTを活用した個に応じた指導、卒業生による英語交流会など数多くの実践事例が紹介されました。発表者の地域では、これらの取組を通じて、「聞く力、話す力、対話力が年々高まっている」、「早い段階から様々な表現方法を工夫したり、アドバイスする姿が見られるようになってきた」などの声が中学校の先生方から届いているとのことでした。

中学・高等学校からは、自作絵本を使った受動態の導入例や自作の読みものの教材の紹介、都立高校入試における学力検査問題を活用した技能統合型の活動、読むことの力のうち概要や要点を把握する力を育成する指導等、発表者が実際の日頃の授業について行っている実践について発表がありました。高等学校の現場では、ESAT-Jの導入以来、新入生の音読の声量が大きくなった、英語で話そうとする態度が見られるようになった、という実感があるとのことでした。

また、公益財団法人東京都教育支援機構（以下、TEPRO）の支援により実現した海外の学校とのオンライン交流会の実践報告がありました。国際交流に興味があり、やってみたいけれども、交流先や交流方法が分からないという学校は、TEPROに連絡してみるとよいと思います。

参加者の皆さんは、生徒が世界で通用する英語力を身に付けるため、小・中・高等学校間の連携を密にしていこう！という気持ちになってお帰りになられたことと思います。

(担当副会長 西貝裕武・事業部長 横山達也)

## 調査部

○日時：令和5年8月23日（水）10:00～16:30

○会場：千代田区立九段中等教育学校

○内容等

・講義「『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ～読むこと～」

・テストづくりワークショップ

前半：テスト問題づくり（1学期の定期考査をもとにグループごとのスペック・テスト作り）

後半：全体発表と講師助言

○講師：玉川大学文学部英語教育学科 教授 工藤洋路 先生

調査部は、今年度、コミュニケーションテスト作成と実施・夏期ワークショップの2本立てで活動しています。昨年作成したコミュニケーションテストを7月に部員の所属校で実施。「書くこと」の思判評の採点方法としてルーブリック採点を導入し、夏休み中の部会で採点作業を通して各項目の基準を合わせるようにしました。また、ワークショップでは、玉川大学の工藤洋路教授による「読むこと」の領域でのテストづくりの講演を拝聴後、各参加者に持参いただいたリーディング問題についてグループで検討。検討した問題から各グループ1題を選択し、改善したものを全体発表し、工藤先生より各発表に対して明瞭で具体的なアドバイスを頂きました（参加者54名）。

(担当副会長 大森博・調査部長 荒川高広)

## 研究部

### 【第1回】

○日時：8月1日（火）12:45～16:20 対面（オンライン配信なし）

○会場：大田区立志茂田中学校

○内容・発表者等

・「生徒が主体的に授業に参加するための工夫～ アクティブラーニング～」

島田 拓（足立区立入谷南中学校） 多田 翔（江東区立第三砂町中学校）

・「練習量を増やす工夫」

一ノ瀬麻子（港区立六本木中学校）

・「思考力・判断力・表現力の育成 ～小中高連携を意識して～」

岡 大佑（東京都立小石川中等教育学校）

### 【第2回】

○日時：8月4日（金）13:00～16:00 Zoomによるオンライン

○内容・発表者等

・「即興で話す力を高める授業実践その2 ～中間指導と評価について～」

松野麻里恵（港区立三田中学校） 前田宏美（東京都立立川国際中等教育学校）

- ・「主体的に学習に取り組む態度の評価」  
大島良一（江戸川区立篠崎第二中学校）
- ・「中学での語彙指導を改めて考えてみよう」  
高杉達也（筑波大学附属中学校）

研究部では、8月1日（火）に参集形式で、8月4日（金）にオンライン形式でワークショップを開催しました（参集85名、オンライン133名参加）。8名の研究部員が実践発表し、参加者が生徒の立場になって授業を体験し、意見交換を行いました。中でも、即興で話す力を高める指導の工夫については全国学力調査やESAT-Jとの関連もあり、参加者の関心も高く、より良い指導法を積極的に吸収しようと活発に意見交換がなされました。（担当副会長 板垣繁・研究部長 浜内明）

## PT部

- 日時：令和5年8月23日（水）13：30～16：10
- 会場：墨田区立吾嬬立花中学校
- テーマ：『4技能5領域の力を育成するための音読指導の必要性と指導』
- 内容等
  - ・PT部員による実践報告
  - ・ワークショップ
- 講師：文教大学国際学部国際理解学科 教授 阿野幸一 先生

プロジェクトチーム部ではESAT-Jでのパフォーマンスなど即興の場面でも十分なアウトプットができるようにするためには十分な音読指導が必要ではないかと考えています。音読活動はインプットとアウトプットの間にある重要なインテイクの活動として捉え、「スピーキング力」や「リーディング力」等の育成にどのような効果があるかを検証しているところです。8月23日には文教大学阿野幸一先生をお招きし『4技能5領域の力を育成するための音読指導の必要性と指導』のテーマで夏季研修会を実施いたしました。62名の先生方に参加していただき、「音読指導のバリエーションを体験することができ授業に取り入れる際のイメージがつかめた」などの感想を多数いただいております。今後もプロジェクトチーム部では音読指導の研究を通して生徒の英語運用能力を育てていきたいと考えています。（担当副会長兼プロジェクトチーム部長 佐藤順一）

## 編集後記

「都中英研だより 第77号」をお送りいたします。長く紙面での発行を続けてきた「都中英研だより」ですが、今号はデジタルのみの発行となりました。今後も、時代や状況に合わせて形は変わっていくことと思いますが、常に、都中英研として何ができるのかということを考えながら、取り組んでいきたいと考えております。ご多用の中、発行に際し、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

本誌に関する  
お問い合わせ先

都中英研出版部長 今本 由美子（立川市立立川第三中学校 校長）  
TEL：042-523-4348 FAX：042-529-1015